

「ウサビ、高田地区・八ッ沼地区を歩く」

掲載日:2013年9月24日



福島イベント出演、テレビ出演、ワインまつり盛り上げ

怒涛のハードスケジュールを送った桃色ウサビ。

そのウサビに3日間同行した弟子(橋本)もグッタリしていました。



ゆるキャライベントで師匠を運ぶのが一番大変でした・・・

(左が弟子、右は上司のスガイ君)

そんな連休明けの9月24日(火曜日)早朝・・・

ウサビの弟子の携帯が高らかになりました。

ジリリリリリ…ジリリリリリ…(電話の音)

弟子 「…(ムニャムニャ)」 寝ている。

高田区長 「フキちゃん、起きろー今日予定あるか？なかったら健康福祉課で

高田地区とハツ沼地区のウォーキングあるらしいから取材こ
ーい！」

弟子 「ハッ！区長さん！！(眠い…)行きまーす！」

()内はココロの声です。



弟子は7月、オニヤンマの羽化の観察で高田地区に通い詰めた。

高田地区はオニヤンマやホタル等、自然が数多く残りブナの原生林が広がる美しい地区。

ウサヒの弟子は、まだ見ぬ秋の高田地区を楽しみにウォーキングに参加することにしました。



まずは参加者の皆さんと準備体操。

健康福祉課 「皆さん、体調万全ですか？アキレス腱伸ばして下さいね！」

弟子 「なんだかとても健全なイベントだ…」



さあ、出発。ところどころウォーキングに関して健康福祉課の方から指導が入ります。



目指すはメダカの高田分校！



高田地区ではビオトープを作り、絶滅心配種に指定された野生のメダカの保護活動を行っています。



弟子 「凄い沢山メダカがいる！！」

高田区長 「15年ぐらい前にこの活動を始めたんだ。今、野生のメダカは普通の池に放しても水質汚染や農薬などの影響でなかなか繁殖しないんだけど、高田ではこんなに増えたんだ。夏場はここでホタルが沢山飛ぶんだよ！」

弟子 「あ、区長さん！高田は本当に自然が豊かに残っている所なんですね！」



真ん中が高田区長の佐竹啓次さん

高田地区を盛り上げようと今日も案内役を買って出てくれたそうです。ありがとうございました。

次に一行は八ツ沼地区へ



発色ウサビ…

ここは八ツ沼の名所「五本樋(ごほんどよ)」です。

文政年間(1818～1829)に、豊向庵という寺の解体移転にともなって出た土台石を使って造られたといわれ、村人の生活用水として長年利用されてきたましたが、簡易水道がひかれた昭和30年代に一度姿を消し、昭和63年に区民の願いにより復元。

弟子「弟子は普段から五本樋の水を汲んで飲食に使っていますよ。」

健康福祉課「！！(地下水だけど、弟子さん、お腹大丈夫かしら)」

参加者「じゃあ、ちょっと飲んでみようか！」



参加者の皆さん、美味しそうに飲んでました。

その後参加者とウサビの弟子は



山形県指定文化財 旧三中(みなか)分校校舎を見学

弟子 「素敵な校舎ですね。中に入れなのかな。」

健康福祉課 「普段は鍵がかかっているので…」

内部見学はNPO法人朝日町エコミュージアム協会にお問い合わせください。

参加者の一人に分校で実際に学んだという人もいました



その話を聞いて、どうしても中の様子が気になる参加者もいました。



最後はハツ沼のシンボル 弥生姫を見ながら春日沼の周りをウォーキング

弟子 「ところで、ずっと気になっていたのですが、これはどういうイベントなんですか？」

健康福祉課 「朝日町の方々に健康になってもらうために健康福祉課がやっている事業なんです。次は10月末に白倉地区方面をウォーキングしますよ。弟子さんも是非、またいらして下さい。」

弟子 「はい。(確かに朝日町に来てから歩く距離減ったかも・・・運動しなきゃ)」

このイベントに参加したい・興味がある方は役場健康福祉課(67 - 2116)へお問い合わせください。



参加者の皆さんは健康福祉課から万歩計を渡されていました。

参加者 「これでもまだ6千歩ぐらいなのね・・・」

弟子 「やっぱり朝日町では基本の移動手段が車ですからなかなか一万歩行きづらそうですね。」

健康福祉課 「そうなんです。だから健康のためにまずは1日15分でもウォーキングしてみてくださいね。」

今回のウォーキングの参加者の方からは

「朝日町に長年住んでいるけれど、ここ初めて通った！」

「こんな所があるなんて知らなかった！」

という声が多く聞かれました。

芸術の秋、食欲の秋、そしてスポーツの秋。

まだ見ぬ朝日町を散策にでかけてみてはいかがでしょうか？